

令和 7 年 1 月 1 5 日

都道府県医師会担当理事 殿

公益社団法人日本医師会常任理事

宮川 政 昭

笹本 洋 一

(公印省略)

今冬のインフルエンザ感染急拡大への対応について

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。インフルエンザに関する対応については、「今冬のインフルエンザ等の感染拡大に備えた注意喚起について」令和 6 年 12 月 27 日付日医発第 1670 号(地域)(健Ⅱ)(技術)等をもって貴会宛て周知を行いました。年末年始・連休における罹患患者への診療対応等について厚く御礼申し上げます。

さて、日本医師会では、新年に入ってからインフルエンザの感染拡大が継続している点を踏まえ、マスク・国民に対してインフルエンザの流行状況、各地での検査キット・治療薬の不足感への懸念、基本的な感染対策の励行等について、記者会見(1月8日)において注意喚起を行いました。さらに、日本医師会より厚生労働省に対し、治療薬の不足・偏在については、速やかに改善するように強く申し入れを行っており、感染拡大下においては、医療現場で混乱なく診療できるよう国の対応を強固にするよう要請する等、本会としましても引き続き取り組んでまいります。

また、インフルエンザの発生状況と抗インフルエンザウイルス薬の供給状況等につきまして下記の通り、情報提供いたします。地域における更なる情報などございましたら日本医師会までご連絡ください。

つきましては、都道府県医師会におかれましても、都道府県行政との対応の協議、なお一層の体制の強化に向けてのご対応を賜りますようお願い申し上げます。併せて、本件についてご了知いただくとともに貴会管下関係医療機関等への周知方につきご高配賜りますようお願いいたします。

記

1. インフルエンザの発生状況について

厚生労働省「インフルエンザ発生状況」によれば、第 52 週(令和 6 年 12 月 23 日～12 月 29 日)は「64.39」と猛威的な感染拡大が全国的に発生しております。1 月 14 日付公表の第 1 週(令和 6 年 12 月 30 日～令和 7 年 1 月 5 日)は「33.82」となっていますが、年末年始の影響が考えられ、引き続き全国的に警報レベルの予断を許さない状況です。

今冬のインフルエンザは、従来型と比較して軽症のケースも報告されていますが、重症化リスクの高い患者(特に高齢者や基礎疾患を有する患者)への影響が懸念されています。

2. 抗インフルエンザウイルス薬の供給状況について

令和 7 年 1 月 9 日時点の抗インフルエンザウイルス薬の供給状況(厚生労働省発表)につきましては、別添のとおり、卸売業者から医療機関への供給量(令和 6 年 12 月 2 日～1 月 5 日)が、「合計約 827 万人分」、また、令和 7 年 1 月 5 日時点のメーカー・卸売業者の保有量は、「合計約 1,506 万人分」と、推定患者数からは十分量との明示がされています。

しかし、特にオセルタミビルリン酸塩製剤に関しましては、一部供給に偏在があり、地域医師会及び会員の先生より不足感があるとの声が届いておりますので、上記のように厚生労働省等に対応を求めています。

通常流通用抗インフルエンザウイルス薬の供給状況(12月分)について

1. 卸売業者から医療機関への供給量(12月2日~1月5日)

- タミフル 約89.3万人分
(カプセル 約59.0万人分)
(ドライシロップ 約30.3万人分)
- リレンザ 約19.6万人分
- ラピアクタ 約10.3万人分
- イナビル 約203.7万人分
(吸入粉末剤 約202.8万人分)
(吸入懸濁用 約0.9万人分)
- ゾフルーザ 約263.6万人分
- オセルタミビル「サワイ」 約198.7万人分
(カプセル 約136.6万人分)
(ドライシロップ 約62.1万人分)
- オセルタミビル錠「トーワ」 約41.9万人分

2. メーカー・卸売業者の保有量(1月5日時点)

- タミフル 約317万人分
(カプセル 約166万人分)
(ドライシロップ 約151万人分)
※報告に誤りがあったため修正(1/9 23:00)
- リレンザ 約134万人分
- ラピアクタ 約15万人分
- イナビル 約585万人分
(吸入粉末剤 約581万人分)
(吸入懸濁用 約4万人分)
- ゾフルーザ 約128万人分
- オセルタミビル「サワイ」 約185万人分
(カプセル 約144万人分)
(ドライシロップ 約41万人分)
- オセルタミビル錠「トーワ」 約142万人分